

教育事業「**全力キャンプ 海・山 My Challenge!**」

1 趣 旨

長期宿泊体験や全力で取り組む活動を通して、課題に対してねばり強く取り組む力、共通の目標に協力して取り組む力を育成し、これからの激動の社会を生き抜く力の基礎を培う。

2 ねらい

- ・ 長期間の移動型キャンプを通して、他と関わりながら困難な状況を克服する経験を積む。
- ・ 集団での活動を通して、他に支えられている自分に気付くとともに、決まりやルールを守り、力を合わせて共通の目標に向かうことの大切さを学ぶ。

3 日 程

(1) 期 日 平成 26 年 8 月 3 日 (日) ～8 月 12 日 (火) 【9 泊 10 日】

(2) 参加者 18 名 (石川県 8 名, 岐阜県 8 名, 富山県 1 名, 千葉県 1 名)

(3) 研修内容及び講師

8 月 3 日 (日)	午後	○開講式 アイスブレイク 指導:乗鞍青少年交流の家職員 ○実習「登山の準備」 指導:乗鞍青少年交流の家職員
8 月 4 日 (月)	終日	○実習「弓折岳登山」(新穂高バスターミナル～鏡平山荘)講師:島田 靖 氏 指導:乗鞍青少年交流の家・能登青少年交流の家職員
8 月 5 日 (火)	終日	○実習「弓折岳登山」(鏡平山荘～弓折岳山頂～鏡平～新穂高バスターミナル) 講師:島田靖氏、指導:乗鞍青少年交流の家・能登青少年交流の家職員
8 月 6 日 (水)	午前	・乗鞍青少年交流の家を出発 富山県砺波青少年自然の家へ移動
	午後	○実習「ジップライン」 指導:砺波青少年自然の家職員 ○実習「野外炊事」 指導:砺波青少年自然の家職員
8 月 7 日 (木)	午前	・砺波青少年自然の家を出発 中能登レクトピア鹿島へ移動
	午後	○実習「サイクリング」(中能登レクトピア鹿島～七尾市立能登香島中学校) 指導:能登青少年交流の家・乗鞍青少年交流の家職員
8 月 8 日 (金)	終日	○実習「サイクリング」(七尾市立能登香島中学校～穴水町立穴水中学校) 指導:能登青少年交流の家・乗鞍青少年交流の家職員
8 月 9 日 (土)	終日	○実習「サイクリング」(穴水町立穴水中学校～能登少年自然の家) 指導:能登青少年交流の家・乗鞍青少年交流の家職員
8 月 10 日 (日)	午前	○実習「グループワーク ～これまでの、これからの歩み～」 指導:能登青少年交流の家職員
	午後	○実習「ランプシェード作り ～海を感じながら～」 指導:能登海洋ふれあいセンター職員
8 月 11 日 (月)	午前	○実習「サイクリング」(能登少年自然の家～珠洲市鉢ヶ崎総合運動公園) 指導:能登青少年交流の家・乗鞍青少年交流の家職員
	午後	○実習「長距離ハイク」(鉢ヶ崎総合運動公園～禄剛崎) 指導:能登青少年交流の家・乗鞍青少年交流の家職員
8 月 12 日 (火)	午前	○実習「感謝の時間① ～自転車掃除～」 指導:能登青少年交流の家職員 ○実習「感謝の時間② ～仲間たちへ支えてくれた人へ～」指導:能登青少年交流の家職員 ○閉講式 解散

4 成果と課題

(1) 事前・事後アンケートによる事業評価

この体験活動における教育効果を図るために I K R 評定用紙(簡易版)を使い、アンケート調査を実施した。その結果、事前―事後調査・事前―追跡調査において「心理的社会的能力」、「徳育的能力」、「身体的能力」の全ての項目において、値に上昇が見られた。総合的な結果として「生きる力」の向上に有意差を見ることができた。

中でも、身体的耐性に大きな変化が見られた。長期キャンプでの、身体的負担を乗り越えたことを通して自信をもったことが見て取れる。

(2) 学校調査アンケートによる評価

事業を通しての変化が、日常生活の中でどのように見られるか、参加者の学校に協力してもらい調査した。(回答数 6) 困難なことへの取り組みに対する変化について 5 名に変化が見られると回答があった。「今までやりとげられなかったことに自分から取り組むようになってきた」という回答に見られるように、困難なことに取り組むようになったことが分かった。

(3) 成果と課題

《成 果》

- ・ 登山、野外炊事、サイクリングなどの活動を計画的に配置したことで参加者の心の成長が見られた。活動全般において、自分や同じ班の仲間の心の動きや、変化について振り返る時間を大切にした。その時間を通して、仲間の心の動きに気付き、励ますようになった子どもや、仲間のがんばりを自分のことのように喜ぶ姿が見られるようになった。本事業の中で見られた、体験活動を通して困難な課題を解決する、仲間とかかわりながら課題に取り組むという参加者の姿は、本事業が「困難に負けずに生き抜く力」を育てるために有効であることを示した。

《課 題》

- ・ サイクリング行程では熱中症対策を講じて臨んだが、雨に見舞われた。自転車の整備に細心の注意を払うなど、安全に留意して活動したが、あらゆる天候の変化に対応する必要性を感じた。
- ・ 移動を伴う活動の中で、休憩場所や天候に応じた経路を幾通りか予想しておくことと、それぞれについて職員が共通理解を図るように、実地踏査を計画的に行う必要がある。



実習 『弓折岳登山』



実習 『サイクリング・長距離ハイク』